

「見える化」
CT港東京
「見える化」

GPS搭載車両782台に 外来トレーラーの8%カバー

7月14日から東京港で
始動したコンテナターミ
ナル（CT）周辺の混雑
状況の「見える化」の取
り組みで、専用GPS（衛
星利用測位システム）端
末を搭載する車両が1日
付で782台に達した。
開始当初は300台だっ

たが、東京港埠頭会社が
GPSを搭載する事業者
の募集を続け、単純計算
では1カ月半で東京港を
1日当たり利用するトレ
ーラーの約8%をカバ
ー。東京港埠頭会社は、
正確な情報をリアルタイ
ムに提供できるように、当

面の搭載目標を1500
台に設定し、台数拡大に
取り組んでいる。
東京港での「見える化」
はGPSを活用し、C
Tの混雑状況をリアル
タイムで可視化する取
り組み。専用ウェブサ
イトで各CTでのゲー

トを通過するまでの待
機時間と、ゲート入場
から退場までの平均滞
在時間を一覽表示してい
る。

開始に至るまでトラッ
ク事業者の協力を得て、
300台の車両に対して
GPS端末の配布を完
了。東京港埠頭では車両
にGPS端末を搭載する
協力事業者を継続して募
集している。
GPSの配布目標につ
いては統計学的観点から

1500台と設定。東京
港を1日で利用する外来
トレーラーは約1万台と
され、正確なデータ収集
に必要とされる15%に当
たる1500台への配布
を当面は目指すとしてい
る。

東京港ではほかに、
8月27日からコンテナ搬
出入予約制導入に向けた
実証実験を開始するなど
埠頭周辺での交通混雑緩
和に向けた施策を推し進
めている。